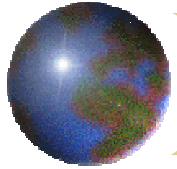


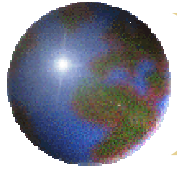
*ICANNローマ会合
政府諮問委員会報告
(2004. 2. 29-3.3)*

2004年4月14日
第9回 ICANN報告会



目次

1. 新メンバー参加とアウトリーチ	3
2. GAC体制	4
3. g TLD政策	5
4. ccTLD政策	6
5. GAC将来体制とその財源	7
6. IPv6	8



1. 新メンバー参加とアウトリーチ

(1) 新メンバー

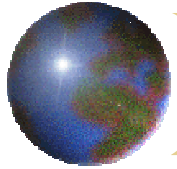
現在、GACメンバーは92(うち、約82メンバーが国であり、他は地域・国際機関等)、漸次増加。

カルタゴ会合以降、エストニア、サントメ・プリンシペ、セネガルの3カ国がGACに加盟。

今回初参加も含め、オブザーバとして、カメルーン、クロアチア、ジブチ、インドネシア、リトアニア、パレスチナ、ウクライナが会合に参加、今後順次加盟を期待。

(2) アウトリーチ

- ・ 会合初日にGAC主催による地域参加国向けフォーラムを開催。
- ・ 今回、地域性を考慮し配付資料の多言語対応を実施(英・仏・アラビア)。会合の同時通訳は無し。
- ・ 今後も活動を強化し、地域フォーラム等を開催していく予定。



2. GAC体制

(1) 副議長改選

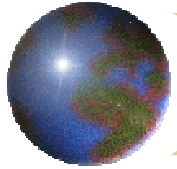
- ・任期1年、3人枠の改選。立候補1名のみで再選。
副議長：Lena CARLSSON (Ms) スウェーデン
欠員2名
- ・会合中に欠員の指名選出の再開について合意。
4/14現在オンラインで推薦段階、7月のKL会合までには決定見込み。

(2) WG再編(GNSO-WGの設立)

WHOIS-WG、gTLD-WGの実働メンバーの重複などの事情から、GACとしての活動の効率化を図るため、これら2つを統合する形で、GNSO-WGを設立。

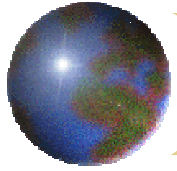
結果、6つのWGで今後効率的に議論を進める形となった。

GNSO、 IDN、 ccTLDs、 Root Server Operation and DNS
Security、 IPv6、 GAC Structure&Finance



3. gTLD政策

- ・ Whoisデータベースの利用・関心に関する質問表を昨年Whois-WGより各国政府に送付。年末を閉めきりとしてその後とりまとめを実施。
- ・ Whoisに関し消費者保護、知的財産権保護、法執行上の必要性等、公共政策の観点からGAC内で継続して議論を実施中。
- ・ GNSO理事会と対話を行い、現在のWhoisPDP等の状況について報告を受けた。GNSOタスクフォースからGACへの質問に関し、提示された短期スケジュールでの回答が難しいという懸念を示しつつ、タイムリーなレスポンスを努力する旨表明。



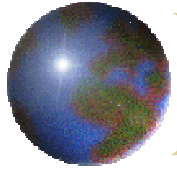
4 . ccTLD政策

(1) GAC ccTLD原則の見直し

- ・ ccTLDコミュニティとGACCcTLDWGの対話を実施。
- ・ 昨年よりWGを中心に継続的に見直しについて議論、ローマ会合において、改定案の大枠までまとめ、今後の作業スケジュールを決定。
- ・ 数週間で公表ベースまで仕上げ、その後、各国ccTLDやインターネットコミュニティへ改定案を公表、意見を聞く予定。
- ・ KL会合で再度議論し、ケープタウン会合での改定案採択を目標。

(2) ccNSO創設

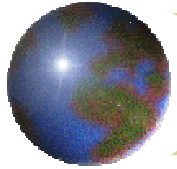
GACとしてccNSOの創設を歓迎。今後ccTLDコミュニティ全体を代表する組織として発展すること（ccTLDレジストリの全参加）を期待。



5. GAC将来体制とその財源

GAC 将来体制とその財源

- ・2003年1月、それまでの豪州政府から欧州委員会へ事務局移管。当初の約束は18ヶ月間。但し将来体制が決定するまでしばらくの間延長することについて欧州委員会は柔軟に対応可能である旨、前回のカルタゴ会合にて表明。
- ・GAC体制の独立性や中長期的な安定化に向け、各国政府からの運営資金の拠出方法や体制について、今後継続議論をするため、Structure and Financing-WGを設立(カルタゴ会合)。
- ・ICANNに対して政策的な観点から助言を行うGACの役割の継続性を保つとともに、そのための財政的な基盤を確立する必要があることから、カルタゴ会合以降、オンラインによる議論を実施。
- ・今回会合の結果、特に財政面について、他の国際的な枠組みを参考にしながら、参加国の多様性に配慮した柔軟な枠組みについて検討することとされた。



6 . IPv6

IPv6

- ・ GAC IPv6-WGヘルートオペレータ(B,F,I)を招聘し、GACメンバーとの間でルートネームサーバにおけるIPv6対応等について意見交換を実施。
- ・ IPv6が普及するためには、単にDNSシステム(ルートネームサーバ、ccTLDネームサーバ等)がIPv6に対応するだけでは不十分であり、インターネット全体がIPv6対応していくことが必要との観点から、次回のKL会合において、広く関係者を集めたフォーラム等を開催する方向で調整することとした。
- ・ WGコンビーナーの交代、日本が継続して担当。